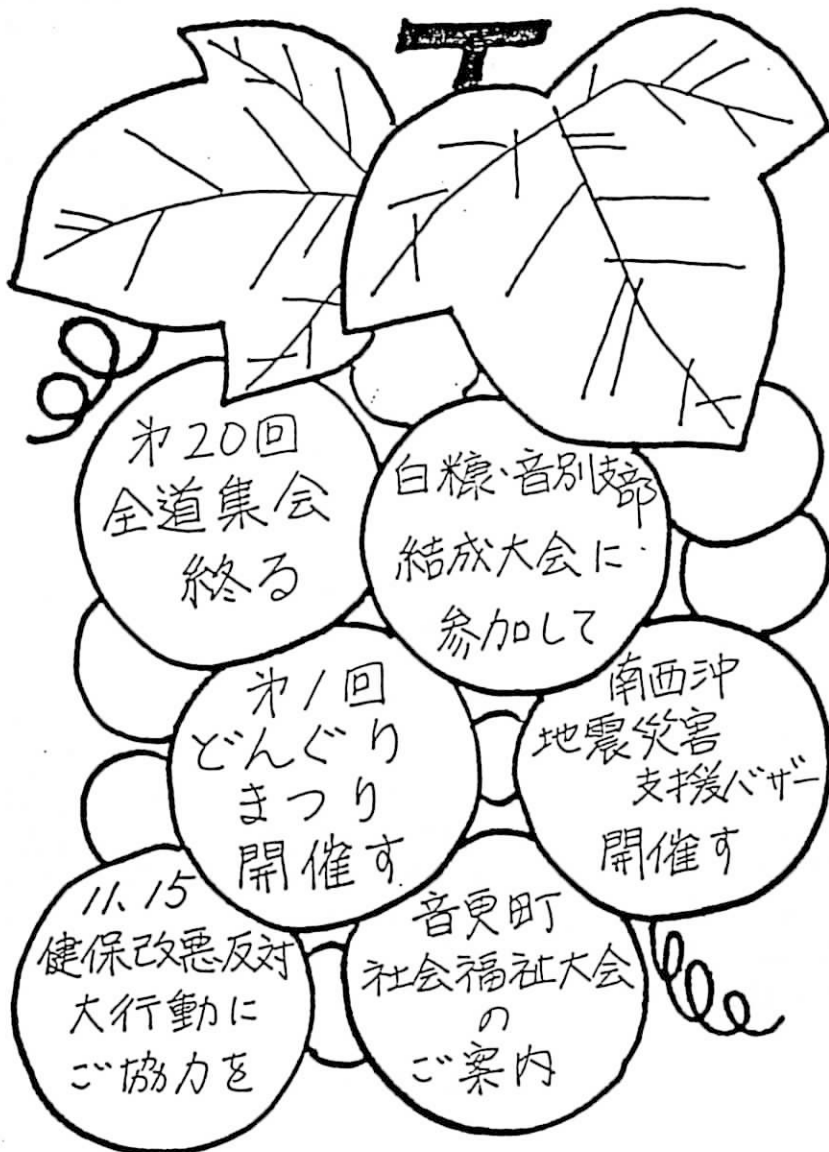


HSK-なんれん

# おとふけ

No14

昭和48年1月13日  
第三種郵便物認可  
HSK通巻第259号  
1993年10月10日発行  
毎月10日発行(1部100円)  
(会費に含まれています)  
編集 財団法人北海道障害者  
者更支部  
発行 北海道身体障害者団体  
定期刊行物協会(HSK)





## 第20回難病患者・障害者と家族の 全道集会終る。

(財)北海道難病連も今年20年を、又難病センターは、開設10年を迎えました。その記念すべき年ですので、今年は昨年に続いて札幌行きとなりました。7月31日(土)総勢14名で朝7時音更を出発し、午後1時30分から札幌市教育文化会館にて開催された全道集会に参加。終了後はグリーンホテル札幌にての祝賀会が催されました。

そこで1泊し、8月1日は朝9時にホテルを出発して、野幌森林公園に向う。現地に近づく頃には昨日より降り続いていた雨も上がり、開拓記念館や開拓の村を見学したり、ゆったりとそれぞれ好みの場所を周って歩きました。

昼食後に野幌を離れる。帰路のバスの中では、ガイドさんと会員の村中さんがゲームをしてみんなを楽しませてくれました。午後6時無事音更に着きました。来年の全道集会は旭川と決まりました。どうぞお楽しみに!

### 全道集会参加者の声

あすなろ会 佐藤 時重

皆様こんにちは、お元気ですか、私も至極元気に過ごして居りますが、この度第20回目と言う節目の全道集会に出席出来たことを大変幸せだと思います。会場に着くと雨天で傘の波でした。早速会場に入り諸先生方の話を聞かせて頂きましたが、福祉関係は非常に厳しい状況にあり、心して頑張らましよう。

その後グリーンホテルに行き休む間もなく祝賀パーティが始まり楽しく話を聞いた後夕食し、やすみました。前より難病連の方が硬いマットにして頂くようお願いしてあったので良く眠れました。

翌日は良い天気となり野幌の開拓の村に寄り「どさんこ」と言う馬の引くチンチン電車に乗り童心に帰り楽しみ、又トンボも沢山飛んでいて私達を迎えてくれました。その他かじ屋、馬そり製作所やガマの油売り、バナナのたたき売り等昔を偲ぶ懐かしい物ばかりで、そこで昼食、途中ドライブインに寄りましたが、メロンも昨年の3倍強と高く横目で見ながら、菓子などを求め車に乗り、車内では「ゲーム」をやり、楽しく過ごして来ました。最後に役員の皆様方、ボランティアの方々に大変お世話になりましたことを厚くお礼申し上げます。皆様この集会を機会に元気に大いに頑張らましよう。

ここで一句! “開拓の むらやトンボの お出迎え”

大谷短大1年 郷原 めぐみ

今回私にとって初めてのボランティア活動でした。難病の種類も何もかもわからないまま参加させて頂きましたが、この2日間の車椅子介助をして改めて、学んだことがあり勉強になりました。でも、きっと相手の患者さんはずっと不安だったことでしょう。それとホテルで一緒の部屋だったパーキンソン病の方とは3時間位色々な話ができ、その中でパーキンソン病についても少し知識がついたので充実した日々を送ることができ、満足している今日この頃です。「百聞は一見にしかず」で雰囲気をつかめたようようにも思えます。これからも機会があればどんなボランティア活動に参加していきたいと思います。

## 北海道難病連白糠・音別支部結成大会に 出席して

支部長 菅原 貞助

(財)北海道難病連白糠・音別支部結成大会が、去る9月12日(日)13時30分より白糠町やまびこ会館にて盛大に行なわれました。音更支部としては、白糠・音別支部準備会以前より道東地区の組織の一員として交流を続けてきた。ご縁もあり参加させて頂くこととなりました。

当日は幸い好天に恵まれ山は未だ紅葉には早い時季でしたが、海岸から吹き上げる潮風は涼しく秋の気配が感ぜられます。往復時は難病連十勝支部の荒尾事務局長のご厚意により同乗させて頂き昼食後の13時頃会場に到着しましたが、既に道難病連の事務局長はじめ、釧路管内町村代表者が同支部の結成を祝い、大勢詰めかけておりました。白糠・音別支部準備会世話人代表二瓶賢二氏の開会の挨拶物故者の黙禱等一連の行事が進み、道難病連の伊藤事務局長の記念講演「患者会活動と地域の医療と福祉」があり、全日程を終了しました。その行程の中で患者、家族の訴えとして「人生と私」と題して準備会世話人の高橋京子さんが自ら難病と闘いながら、3人の子供の育児の世話をし、漸く先に見える生活に立ち至った今、過去を振り返り、親戚をはじめ行政社会の多くの方々に、お世話していただき感謝の念で一杯ですと発表しておられました。又一つは当日は日曜日でしたが、白糠、音別の両町長はじめ保健所長、保健婦長、町議会議長、福祉部課長、ボランティア等ご出席され、特に白糠町長は、めでたく支部が結成されたことに、祝福を送ると共にこの支部の組織の重要性を認識され、今頃では遅きに失した感があると語られ、白・音支部にとって誠に力強い発言があり、白・音支部が共通の理念に向って尚一層研鑽努力され、ご発展されますよう心からエールを送り、ご報告と致します。

## 北海道南西沖地震災害支援バザー開催す

7月12日に起きた大地震と大津波により被災された奥尻島や周辺地域の皆様には、心よりお見舞い申し上げます。

音更支部では緊急に役員の申し合わせでこの度の災害で、被害に遭われた私達の仲間や多くの方々に、今支部として出来ることは、日常的にいろいろな方面から援助を受けて活動してはいますが、受ける側だけになつてはいけない。私達もこの機会に、何らかの形で社会還元を、と、バザーを開催することになりました。7月18日(日)どんぐりの家前広場と決め、当日まで日数のない中を、十勝毎日新聞社と北海道新聞帯広支社のご協力を得まして、訴えましたところ、沢山の方々がわざわざ品物を持参して下さいました。

当日は地域の方始め遠方からも来ていただきました。バザー品を買っていただいた他にカンパもして下さいる方等、短期間の取り組みにもかかわらず、4万、005円の収益を上げることが出来ました。このお金は全額北檜山支庁の災害本部へ

7月19日に送らせて頂きました。

バザーの準備や開催に当たりましては、何かとご協力を頂きました。ふきのとう手話の会有志の方々、大谷短大の方々、一般篤志の方には、心より厚く御礼申し上げます。

## オ/回どんぐりまつり開催す

7月19日(日)11時~15時迄、どんぐりの家運営委員会主催でどんぐりまつりを開催しました。会場はどんぐりの家前広場で、絶好のまつり日和あまりの好天気で帽子とテントが必要な1日でした。参加料は500円、飲物、オ=キリ持参で、当日は炭火でジンギス汗、サンマ、イカ、焼鳥、アキアジのチャンチャン焼やゆでトキビにジャガイモの塩煮、とおしゃべりするいと間もない位品数がいっぱいです。

お腹も八分目位になった頃、薪ストーブで炊いた釜のイナキビご飯が出来上り、更にサンマの生きが良かったので、居酒屋「源氏」のマスター渡辺さんが刺身を造って下さいました。初めて食べる人も多くいて大変好評でした。ビール、ワイン、お酒と差入れもあり、食べる程、酔う程に気分も高揚し、どんぐり

家でカラオケも始まり. お腹いっぱい. 目いっぱい  
秋を味わった1日でした. 参加者は42名です.

11.15 健保改悪は許さない患者・家族大行動  
に向けての署名・カンパにご協力を

厚生省は来年の通常国会にも健康保険法  
「改正」案を提出する準備をすすめています.

JPC(日本患者・家族団体協議会)では下記  
の緊急陳情署名要望事項を多くの仲間と呼  
びかけ. 集められた署名は. 加盟各団体代表が  
厚生大臣へ仲間の声として届けます.(11月15日)

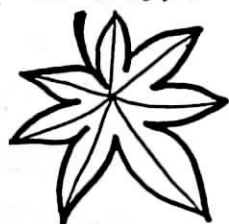
この署名・カンパ行動は10月いっぱいの期間  
だけです. ご協力をお願いします. 署名用紙は  
事務局にもあります.

————— 緊急陳情署名要望事項 —————

1. 病院給食は治療の一環です. 治療中断のおそれ  
がある給食代の患者負担の導入はやめて下さい.
2. いまごさえ多くの病院で室料差額が公然と  
徴収されています. 室料の患者負担を公認する  
保険給付の除外はやめて下さい.
3. 「使用の適正化」を理由としたクスリ代の患者負  
担導入は. ごく一部の医療機関のクスリの乱用

を是正せず、患者に責任を転嫁するもので、患者はむしろ被害者です。クシリ代の患者負担導入はやめて下さい。

4. すべての国民が貧富の差別なく公平に最善最新の医療が安心して受けられるよう、予算を増額し医療保険制度を改善して下さい。



### 今後の行事予定

- 10月17日(日) 町社会福祉大会 参加 (不用品、  
バザー)  
12月5日(日) オ3回 クリスマスパーティ (保健センター)  
来年2月末頃 福祉制度に関する講演・相談会

### 会報の名称変更になりました

この度、オ3種郵便物の認可がおりまして、  
今まで「なんれん音更支部版」として発行して  
いましたが今号より名前を改めました。  
「なんれん おとふけ」として発行すること  
になりました。これからも機関紙作りに皆様  
のご協力をお願いいたします。

事務局 FAX・TEL 31-8723 25

# 大会スローガン

大好きな町 おとふけぞ

あなたもわたしもボランティア

## 大会趣旨

社会福祉協議会第二期地域福祉実践計画・音更町老人保健福祉計画と相次いで計画され、地域福祉を基調とした市町村福祉時代の幕開けとなりました。本年度は地域福祉の根幹となる様々なボランティア活動を中心に社会福祉大会を開催し、だれにでも、どこでももできるボランティア活動について、町民にアピールすることを目的とする。

## 主催

音更町社会福祉大会実行委員会

音更町社会福祉協議会

音 更 町

## 日時

平成5年10月17日(日)午前10時～午後3時

## 場所

音更町児童会館

## 対象者

全町民



日 程

10                      11                      12                      13                      14                      15

開会式	
福祉作文コンクール	
介護・健康相談、介護用品展示コーナー	
福祉機器体験コーナー	
ボランティアグループ・福祉施設アピールコーナー	
福祉ビデオ上映コーナー	
福祉教室 点字・手話・手引き	
無料サービスコーナー	
昼食バザー	
	お楽しみ抽選会
	閉会式

開催会場

大ホール 開会式・閉会式

“ ボランティアグループ・福祉施設アピールコーナー

“ お楽しみ抽選会 (難病連は不用品バザーと署名行動)

遊戯室 福祉作文コンクール

和室5番 介護・健康相談、介護用品展示コーナー

“ 6番 福祉教室

相談室 福祉ビデオ上映

事務室 福祉機器体験コーナー

調理室 昼食バザー (そば、うどん、おにぎり、カレー)

2階ホール 無料サービスコーナー

---

—HSK・なんれん おとふけ—

---

編集人 (財)北海道難病連音更支部 穀内 さかえ  
音更町

昭和48年1月13日第3種郵便物認可

1993年10月10日発行 HSK通巻259号

発行人 北海道身体障害者定期刊行物協会 細川 久美子  
札幌市中央区北9条西19丁目

---